端つこ隅つこ

伊津野 均

銀座と呼ぶ津軽の路地の雪溜り
榾足して真めく貴種流離譚
掃溜めでくるくる舞へる花の屑
人生の端つこにゐてうらけし
計画を立てて忘るる諸葛菜

瞬きの間に消えてゆく虹の先
残高を確かめてゐる夕端居
蔦を引き新しき道見えて来る
へなちょこな一声虫の闇の隅
外野手の子へ蜻蛉の話しかけ
座の末で受く月待の芋子汁
カステラも栗羊羹もはしが好き